

【配点】 1 各1点×40 1 2 3・2 4・3 2 各2点×16 2 7 II・3 1 各6点 4 18点 その他 各4点×12

3

は	に	か	っ
き	巻	な	た
り	き	い	か
う	こ	の	ら
な	ま	も	。
ず	れ	吉	
い	た	平	
て	く	に	
み	な	感	
よ	い	じ	
う	が	が	
な	、	悪	
こ	う	い	
と	な	と	
	ず	思	

(同意可)

4

こ	2 A
フ	B
と	C
ア	3
エ	4 I
イ	II
ウ	III
す	5
ご	
さ	

(完答)

エ	6
エ	7
ウ	8

一	の	や	子	は	動	る
九	恐	集	か	虫	的	よ
六	竜	団	ら	類	な	う
四	デ	で	、	で	恒	に
年	イ	狩	恐	は	温	な
に	ノ	り	竜	な	動	っ
発	ニ	を	は	く	物	た
見	ク	お	お	、	で	。
さ	ス	こ	ろ	び	あ	
れ	の	な	か	ん	る	
た	身	で	の	し	と	
直	体	て	ろ	よ	考	
立	的	い	ま	う	え	
歩	特	た	な	で	ら	
行	徴	様		活	れ	

(同意可)

1 (漢字)

漢字によって、おさえるべきポイントが異なる。1「拝」の横棒の数が四本、5「展」の左下に余計なハライを書かない、12「専」の右上の点を書かない、などは漢字の「形」がポイントである。4「規律」を「起立」としない、15「保険」を「保健」としない、23「細心」を「最新」としない、などは同音異義語を「意味」「用法」により区別することがポイントである。ゆえにこれらは単なる反復練習ではほぼ効果がない。また、2「訪米」や17「早晩」、19「亡命」などは字そのものというよりも「語彙」を身につけているかどうかのポイントである。その他、送りがなや同訓異字などがポイントとなる漢字がいくつかある。トレーニングNo.2と4の「漢字学習の要諦」を振り返り、それぞれの漢字に応じて適切な直しをしておいてほしい。

2 (部首)

それぞれの部首の名前を覚えていないと答えられない。また、部首の意味も覚えておいてほしい。たとえば①の「おおざと」には「人が集まり住んでいるところ(集落)」という意味がある。したがって「都・郡・郊」も「集落」に関係があるので、意味も覚えやすくなり、「郡」と「群」など、音が同じで似た形の漢字の区別にも役立つ。

3 (熟語の読み方)

「湯桶読み」は「訓音読み」、「重箱読み」は「音訓読み」である。訓読みはもともと日本語であるから、単独でも意味がわかりやすかったり、送りがなが送れるものが多かったりする。①なら「朝」を「あさ」と読み、これは意味がわかるので訓読みだと判断する。「日」も同様である。これでどちらも訓読みなのでCとなる。ただし②の「本」、④の「台」などは「訓読みと間違えやすい音読み」なので、別に覚えておく。「絵・本・番・台・客・図・鉄・茶・肉・王」は音読みだと覚えておこう。

2

1 まず「水深50センチメートルのあたりでじつとしていた」ものであることをおさえる。この後に何度も「彼」が出てくるので大鱒と結びつけるのは難しくないだろう。

2 傾きつつある太陽の光を小魚の体が反射していることをイメージしよう。

3 大鱒が虫をすばやい動きでとらえた瞬間である。

4 それぞれの述語に対して「何が」「だれが」と考える。Aは主語が離れたところにあるが、「水を口から鰓へ通していた」のはだれかと考えれば「彼は」となる。また、一文節でぬき出すので「は」を入れること。

5 波が立ったせいで「彼の姿が見えなかった」のである。

6 問5とも関連する。波紋が消えたから、「大鱒の黒い姿はもうなかった」ことが確認できたのである。

7 I この書き方では、すぐ後のことを指して「始めて気づいた」と言っている、と読むのが正しい。どの部分とつながるのかを正確に見抜くことが文章を正しく読むということである。また、二つ並列になっているので一つ目で終わらないように注意しよう。

II 「松のいい匂い」は突然発生したのではなく、前からあったはずである。なぜ気づかなかったのかと考えると、大鱒に夢中になって我を忘れていたからだと考えられる。大鱒がいなくなったことで、我に返ったのである。

3

1 直後に「みようなことに巻きこまれたくなかった」とあるので、これはもちろん理由なのだが、ただ巻きこまれたくないだけならうなずかなければいいだけのはずである。あいまいながらもなぜうなずいたのかというと、吉平に対して気をつかっているという部分もあるということである。

2 A「こてんぱん」：徹底的にやつつけるさま。B「フレンドリー」：友好的であるさま。C「とつさに」：その瞬間に。

3 『いつしよにやろうぜ』ということばは、颯太の胸にひびくものがあつた」とある。このことばを反芻して「にんまりした」わけであるから、この結びつきが正しく説明されているアが正解である。エは後半が言い過ぎになっている。

4 I は直前の内容を「風上に向かって走ることになる」と説明しているので「つまり」がはいる。IIは「細い体」「意志も弱そう」を「表面上のこと」と否定しているので「しかし」がはいる。IIIは「顔を近づけた」あとに「ぱつと顔をかがやかせた」という動作の連続を示す「そして」がはいる。

5 二行前に「颯太は吉平のすごさがわかった気がした」とあり、続けて「それは、吉平のほうもだった」とある。吉平は以前に城山を走ったときから、「ぱつと見には細い体で、意志も弱そう」な颯太の「すごさ」に気づいていたのである。それをこの後で「おれの目にくるいはなかった」と言っているのである。

6 アは「予想通り」がおかしい。「鈴木くんっていうのがある」という言葉から、そもそも吉平が鈴木晴美のことを知っているかどうかは颯太にはわかっていたいなかった。イは「判明し」がおかしい。「あつたのだろうか」とある。ウは「メンバー」として適切だと思いがちがう。「ほかにうかばなかったの」とあつた。

7 「不適當と思われるもの」を選ぶことに注意しよう。直前の吉平の発言からすると、鈴木晴美をチームに入れることには困難がありそうだが、実力がないというのはなさそうである。

8 アは「不良少年」、イは「割とはつきりと口に出すことができる」、エは「吉平とはクラスメートで」がそれぞれおかしい。

4

全体を通して書かれていたのは「ディノニクスの発見が、従来の恐竜像をひっくり返した」という内容である。これを骨組みとして重要度が高い内容を肉付けしていこう。「従来の恐竜像」はどのようなものであつたか、ひっくり返された後はどういうイメージになったのか。また、ディノニクスのどういうところが従来の恐竜像をひっくり返すことになったかというのを字数の許す限り足していけばよい。満点を取ることは難しくても、部分点は取れるはずである。